



公立大学法人 愛媛県立医療技術大学大学院

保健医療学研究科 看護学専攻・医療技術科学専攻



募集人員

研究科名	専攻名	定員	取得できる学位
保健医療学研究科 (修士課程)	看護学専攻	5名	修士(看護学)
	医療技術科学専攻	3名	修士(医療技術科学)

アドミッションポリシー (求める人材)

本学大学院の設置理念や教育目的に賛同し、修士課程での学習を通してさらに高度な知識・技術を身につけ、地域の保健医療福祉分野において活躍できる人材を受け入れます。受入れにあたっては、入学志願者の能力、意欲および適性等を多面的に判定し、公正かつ妥当な方法で選抜試験を実施します。

求める学生像は以下のとおりです。

- 保健医療福祉分野の基礎知識を基盤として、柔軟な発想ができる人
- 保健医療福祉分野の課題を探究するための論理的な思考力を備えた人
- 保健医療分野においてリーダーまたは管理者・教育者として貢献する意欲のある人

研究科共通項目に加えて、各専攻は以下のような人を求めます。

<看護学専攻>

- 看護実践上の課題解決に向けて自ら探究する意志のある人
- 専門分野における実践能力のさらなる深化を目指している人

<医療技術科学専攻>

- 臨床検査を主とする医療技術科学分野の研究基礎能力の獲得を志す人
- 臨床検査分野の高度な専門知識と技術の修得を目指している人



基本理念 「地域の保健医療を支える」

教育目標とカリキュラム

研究科共通の教育目標

本研究科は、保健医療分野における社会的な諸課題を具体的に解決することにより、健康でこころ豊かに生活できる地域社会の実現に貢献し得る**高度専門職業人を育成**することを基本目標とし、次のような能力を有する人材を育成します。

- ①実践の現場で展開されている諸現象について科学的に検証しエビデンスを明確にするとともに、学術研究を通してそれらをさらに深化・発展させ、その成果を実践に適用することのできる人材を育成します。
- ②地域社会で生じている保健医療の諸課題について、その内容を学問的・体系的に俯瞰するとともに、背景にある原因や要因、解決策について解明し、関係者や社会への発信、諸制度や地域システム改善の提言、関係職種との協働活動を展開できる人材を育成します。
- ③保健医療機関、地域、行政、教育などの現場において、リーダーまたは管理者・教育者として中心的な役割を果たし、活躍できる人材を育成します。

研究科共通の教育目標に加えて、専攻ごとに以下のような目標を掲げています。

看護学専攻

看護に関する学習や経験を振り返り意味づけする力、人々の健康に関する諸現象を分析し、構造化する力、論理的に思考し人々に説明できる力を身につけ、**高度専門職業人として実践の場でリーダー・管理者・教育者の役割を発揮できる人材**を育成する。

医療技術科学専攻

臨床検査の学習や経験を基盤に、臨床検査を中心とする医療技術科学において、高度の知識を活用した医療技術の開発・改良を行う力、卓越した検査技術を駆使する力を身につけ、**高度専門職業人として実践の場でリーダー・管理者・教育者の役割を発揮できる人材**を育成する。

カリキュラムの構造

看護学専攻 修士（看護学）

専 門 科 目	特別研究	
	専門分野	専門共通
	○基盤看護	●看護管理学特論
	○育成支援看護	●看護研究方法論Ⅰ・Ⅱ
	○成人看護	●理論と看護実践論
	○高齢者看護	
	○精神看護	
	○地域看護	

医療技術科学専攻 修士（医療技術科学）

専 門 科 目	特別研究	
	専門分野	専門共通
	○分子細胞生物学	●臨床検査技術学特論
	○遺伝子検査学	●医療技術科学研究方法Ⅰ・Ⅱ
	○感染制御学	●先端医療科学特論
	○病理細胞診検査学	●環境保健学
	○生体防御学	
	○生体機能検査学	
	○病態情報解析	
	○血液病態検査	

共通科目（選択） ●生涯教育学特論 ●保健医療統計解析 ●医療情報学特論 ●疾病制御学特論 ●英文献講読
共通科目（必修） ●保健医療システム特論 ●医療倫理学特論



授業の一コマ



修士論文発表会



研究データ分析中

履修の仕方

社会人の方が在職のまま大学院教育が受けられるよう、夜間（18：00～21：10）、土曜その他特定の時間又は時期に開講する授業や集中講義などを設けています。

長期履修学生制度について

職業を有している等の事情により、標準修業年限（2年）を超えて一定の期間にわたる教育課程を履修することを申請し本学が認めたときは、修業年限を入学時から起算し4年まで延長することができます。なお、合計授業料は標準修業年限2年の場合と同額です。

履修例

2年で修了する人の例

1年目に平日は週1～2日（夜間）と毎週土曜日に授業を受け、研究以外の単位をほぼすべて取得。2年目は研究に専念する。（平日勤務で職場の協力が得られやすく、毎週土曜日の出席が可能な人、又は学業に専念できる人向き）

3年で修了する人の例

研究以外の科目を平日は週1日（夜間）、土曜日は隔週履修にするなど、2年間に分散して必要単位を取得。3年目は研究に専念する。（交替勤務の人や平日勤務でも18時からの授業出席や毎週土曜日の出席が難しい人向き）

修了生の声



石川 桂

松前町保健センター

僕は看護師を3年間経験した後、大学院に進学しました。大学院では、育成支援看護学を専攻し、医療的ケア児を育てる母親を対象に研究に取り組みました。母親へのインタビューから得られた語りの分析を進めていく中で、インタビュー内容のカテゴリー化やその構造図をどのように表現するのが一番苦労しました。



仲田 琴美

愛媛県立医療技術大学

大学卒業後、看護師として経験を重ねる中で、将来に向けた視野を広げるため大学院に進学しました。仕事と両立しながらの研究は大変なこともありましたが、自身が実践してきた看護の意味を深める面白さを感じたと同時に、大学院で出会った仲間たちと共に、励まし合いながら学んだ日々は貴重な財産となりました。現在は、愛媛県立医療技術大学で教員をしています。病院とは異なる環境で新たに経験することが多く、大学院に進学したからこそ今の経験があると感じています。今後も、大学院で学んだことを活かし、研究・教育に邁進したいと思います。



坂本 美桜子

愛媛県立今治病院検査部

私が大学院に入学したのは、子ども療育センターに配属されて三年目の時でした。日々の検査業務に奮闘する中、患者さんが苦痛に思わない検査って何か考えられないだろうと思ったのがきっかけです。研究は思うようにいかない時もありましたが、大学教員や様々な分野で活躍されている同期生と意見を交えながら、研究について語る日々はとても充実していました。卒後は転勤もあり新しい分野での再出発となりましたが、大学院で学んできた事を実践に活かせるよう努めています。

専攻・分野別 修士論文テーマの例

専攻・分野		修士論文テーマの例
看護学	基盤看護学 (看護教育学・看護技術学)	- 看護師長が実践する感染管理活動の解明 - 看護学実習中の学生行動に対する臨床看護師の知覚の解明 - 領域の大学を卒業した看護系大学の社会人学生が知覚する経験 －教員との相互行為に焦点を当てて－
	育成支援看護学	- 医療的ケア児の家族が上手く行く生活を成り立たせるエンパワメントの要素 - NICUに入院経験のある医療的ケア児を育てる母親が退院を意思決定した要因
	成人看護学	- 同種造血幹細胞移植を受けた患者の退院後の困難と対処 - 禁煙外来における熟練看護師の禁煙支援技術 - リハビリテーション看護に携わる看護師のやりがい促進する要因と阻害する要因およびその関係性
	精神看護学	- 境界型パーソナリティ障害患者に否定的感情を抱く看護師が患者と向き合えるようになるまでの過程 －ターニングポイントの概念を用いて－ - 精神科病床における長期入院患者が地域移行に至るまでの動機づけの変化 －統合失調症患者に焦点をあてて－ - 患者の自殺に遭遇した看護師が不均衡状態から危機回避に至るプロセス
	地域看護学 (地域看護学・健康科学)	- 自治体保健師の施策化能力に関連する事業化経験と職場環境要因 - 医療ニーズの高い在宅療養者を支える訪問看護師の連携力とその関連要因 - 農漁村の地区組織で活動する中高年者の子育て支援に関する意識と行動
医療技術科学		- 市販鳥レバーおよび臨床材料から分離した基質特異性拡張型β-ラクタマーゼ産生Escherichia coliおよびKlebsiella pneumoniaeが保有するblaCTX-M型別に関する検討 - 良性異型を伴う反応性移行上皮細胞のvimentin染色態度について －尿路上皮癌細胞との鑑別を目的として－ - BDシュアパスTM液状化検体細胞診の固定保存液から作製したセルブロックを用いた免疫組織化学の検討 - 乳腺穿刺吸引細胞診におけるp63の免疫細胞化学的検討 - 骨肉腫細胞の増殖能および遊走能にビスフェノールAが及ぼす影響に関する研究 - 尿中の糸球体上皮細胞とボウマン嚢上皮細胞は各種腎疾患の非侵襲性バイオマーカーとなり得るか？ －WT1を用いた酵素抗体法による検討－ - 胸郭運動による自律神経機能調節 －呼吸・胸郭運動の新たな検査手法による解析の試み－ - 子宮体癌におけるメチル化DNA結合タンパクを用いた、DNAメチル化解析

詳細は各専攻のホームページでご確認ください。



看護学



医療技術科学

お問い合わせ先

愛媛県立医療技術大学教務学生グループ

〒791-2101 愛媛県伊予郡砥部町高尾田543

TEL 089-958-2111(代) FAX 089-958-2177 E-mail nyushi@epu.ac.jp

詳細についてはHPをご覧ください。

PCサイト <https://www.epu.ac.jp/> 携帯サイト <https://www.epu.ac.jp/mobile/>

